

平成28年9月15日発行 鷹山宇一記念美術館友の会
 〒039-2501 青森県上北郡七戸町字荒熊内 67-94 七戸町立鷹山宇一記念美術館内
 TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860 e-mail info@takayamamuseum.jp http://www.takayamamuseum.jp/



トルソ

白いトルソが幻想的に浮かび上がり、画面の上部には7匹の蝶が乱舞している。小さなこの作品は「みずゑ」の表紙を飾り、当時の絵描き仲間にならなからずの衝撃と絶賛の声をあげさせた逸作である。その美しい後ろ姿にはなんだか気品さえ感じてしまうのは私だけであろうか。

鷹山46歳の時の作品だが、年齢を聞いて驚いた。その計算された構図、美しい体のラインからは、画学生のような初々しさを感じさせる。そう思わせてしまうのはやはり、「鷹山宇一」のデッサン力にあるだろう。鷹山は次のように語っている。

「私にはたった一つ自負できる〈絵描き魂〉がございます。それは自分ほどデッサンを勉強した者はいないだろうと言い切れることであります。」この言葉に鷹山の凄さを感じた。こんなにきっぱりと言い切ってしまうのは並大抵の努力ではなかったはずである。40、50歳の一番働き盛りに何千枚とデッサンを勉強していた鷹山は、「画学生の時のデッサン力は途中でなくなるものだ。だからもう一度の勉強をすれば、それが一生血となり肉となって自分を支えてくれる。世間に認められ筆が荒くなる前に自分で自分の財産をつくっておかなければならない。」と語っている。50代までの間、何千枚というデッサンを描き続けてきた鷹山だからこそ、何歳になってもこのような、みずみずしく、真摯な絵が描けるのだろう。

まさにこの「トルソ」は、鷹山の画業人生の内一つの通過点ではあるが、原点ともいえる作品ではないだろうか。

学芸員の道を今一步踏み出した私だが、これだけは誰にも負けない!といえるような強みをこれから一つでも作りたいと思わせてくれた作品である。

(学芸員 遠藤未奈子)

平成28年度第1回研修旅行として弘前市博物館で開催の「水野コレクション 花鳥風月」近代日本画 美の系譜」を鑑賞して参りました。紀行文をお寄せいただいたのでご紹介いたします。

有意義だった研修旅行

七戸町 田中 淳



弘前市博物館前で記念写真

本年6月に鷹山宇一記念美術館友の会に入会しました。美術を鑑賞するのは好きですが、美術に関する知識が乏しいことから、識見を深めたいとの思いもあって研修旅行に参加しました。今回の研修旅行は、弘前市立博物館で開催中の「水野美術館コレクション 花鳥風月」近代日本画の系譜」の

鑑賞でした。参加者は31名で、朝8時に七戸町を出発し、途中、弘前市の追手門広場内にある弘前市立観光館に立ち寄りしました。同敷地内にある旧弘前市立図書館や大正時代の口語自由詩の詩人である「福士幸次郎展」及び「太宰治の高校生活展」が開催されている弘前市立郷土文学館等を見学しました。弘前市のホテルニューキャッスルでバイキングによる昼食後、午後1時前に博物館に到着しました。水野美術館は、キノコの総合企業「ホクト株式会社」を設立した故・水野正幸氏が長年にわたり蒐集した近代日本画コレクションをもとに、平成4年に長野市に開館しました。開館以来、横山大観を中心とした日本美術院系の作家を中核とし、長野県出身の菱田春草の作品の蒐集にも力を入れています。現在では上村松園、鏑木清方らの美人画、杉山寧、高山辰雄、加山又造ら戦後から平成にかけて活躍した作家の作品も加え、約500点からなるコレクションを構成しています。今回の特別企画展では、そのコレクションの中から選りすぐった優品を「花」「動物」「人」「風景」の4つのテーマに分けて、「花鳥風月」と題して紹介しております。友の会のために、特別に学芸員の方が作品の解説をしてくださいました。横山大観の「無我」は3点あり、東京国立博物館所蔵の無私の表情に納得がでなかつた大観が書き直

したのが本作品だそうです。一通り解説が終わった後に、改めてゆつくり各作品を鑑賞しました。個人的には、切手の図柄にもなった「序の舞」で有名な上村松園の作品が気に入りました。一点の曇りもない精緻で格調の高い美人画は、ひととき輝きを放っておりまして、久しぶりに日本画を鑑賞する機会に恵まれ、また、文学にも触れることができ、誠に有意義な研修旅行でした。

友の会研修旅行に参加して

七戸町 縄田 恵美

いつも楽しく参加させていただいています。今回も、まず新会長さんの朗らかな挨拶を聞き、今日一日楽しく過ごせることを確認しました。姉と二人で楽しみにしていたのが、昼食のホテルバイキングです。9階からの岩木山の眺めがすばらしく、センスの良いチョイスだね、と喜んで話していました。



弘前市観光館前にて

その岩木山の話かけに、会員の先輩方から文化・美術情報、人生のアドバイス等、興味深いお話しを聞く

ことができました。これが研修旅行に参加する私の一番の楽しみですね。次に弘前市立博物館で学芸員さんの説明の中に、「絵の構図は、その基となる事柄を知っていることを前提に描かれている。歌舞伎の演目であつたり、流派、時代背景、故事から由来している」ということを聞き、一つの絵から次々と知りたいたいが、増え、脳がとても刺激を受けます。そして美術に素人の私が、平山郁夫、上村松園、鏑木清方、加山又造、山本丘人、中島千波、横山大観等、これらの作家の名前を初めて知り、日本画や美人画の美しさに感じ入るようになったのは、全て鷹山宇一記念美術館の過去の企画展のおかげです。金屏風に赤白梅を見ると華やかな気持ちになりますし、美人画のなめらかな曲線や表情には、うっとり見とれてしまいます。日本人の感覚がDNAに刻まれていることを自覚するひとときでした。美術館と出会わなければ知ることのなかった喜びです。私は今、三沢基地に勤務しているのですが、外国の方にもぜひこの美しさを知ってもらいたいです。友の会会員として微力ですが、一人でも多くの方に鷹山宇一記念美術館に足を運んでもらえるよう、外国人や同世代にPRすることが、私にできる恩返しだと思っています。最後に、ひばり館長の「おかえりなさい」という暖かな言葉と笑顔を拝見し、女性の持つ心配りや包容力の大切さを改めて感じました。いつも楽しい旅、新しい視点、活力をありがとうございます。

模型のタミヤがやってきた！

永遠に僕らの心は少年さ

— Report —

青森放送株式会社との共催による本展は、9月4日(日)、30日間の会期を無事終了しました！県内外から、17,287人ものお客様にお出かけいただきました。工作教室に講演会とイベントも盛りだくさんで、タミヤ模型の魅力に触れていただくことができたのでは？と感じております。そして、様々な形でたくさんの方々のお力添えを賜りましたこと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

◇8/5(金)開儀式&レセプション



株式会社タミヤ代表取締役会長田宮俊作様にご挨拶頂きました。

◇工作教室開催！

期間中、ミニ四駆教室、ロボット工作教室、スイーツデコレーション製作体験を開催。その詳しい様子は5ページをご覧ください。



◇8/23(火)

入館者1万人セレモニー

1万人目となったのは青森市の佐々木様、舛谷様ご兄妹。小さいころから模型が好きだったという佐々木様は、「びっくりしたけど、記念になりました」と喜んでいただきました。



↑左から新谷理事長、舛谷様、舛谷様の娘さん、佐々木様、鷹山館長。

他にもイベント盛りだくさん！

ご紹介しきれないほどのイベントがたくさんありました！

→8/21(日)のバイク展示の様子。珍しいバイクが輝かしく整列しました。



←ラジオコントロール体験の様子。子どもたちが楽しそうに車を走らせていました。



↑普段は聞くことのできない、タミヤの仕事のお話や、入社試験の時のお話もしてくださいました。楽しい時間をありがとうございました！

◇8/27(土)特別記念講演会

株式会社タミヤ催事課の新田泰三氏による講演会を行いました。「好きを仕事にするということ」をテーマに、模型に興味を持った経緯、タミヤに入社するまでのこと、入社後のお話と、タミヤファンには貴重な時間となったことでしょうか。

◇お客様からのお手紙

お客様から、大変うれしいお手紙を頂きました。ご紹介いたします。

あつという間の2時間でしたが、あらためて、タミヤのすばらしさと良さを再認識致しました。私は昭和26年生まれの65才ですが、タミヤが誕生し、成長する時代を共に過ごせたことを感謝しなければ、と思つた次第です。サブタイトルの「永遠に僕らの心は少年さ」は今後の私の模型作りに対する原点の言葉となりました。(省略)最後に、このような素晴らしい企画展を東北の小さな美術館で実現した館長、学芸員とスタッフの努力とそれに応えて協力したタミヤさんに深く感謝いたします。ありがとうございました。

(岩手県 A氏)

総入館者数

17,287人

30日間という短い期間にも関わらず、本当にたくさんのお客様に足を運んでいただきました。美術館で過ごした時間が皆様にとって夏の思い出の一つとなりましたら幸いです。心より感謝申し上げます。

美術館ニュース

9月10日(土)から、特別展「草乃しずかの世界展」ひと針に祈りをこめて40年」を開催しております。

1944年(昭和19)に草乃氏は、昔から北前船がもたらす京文化の影響を色濃く受けてきた石川県羽咋市で生地元の伝統工芸も多く、そのようなところで少女時代を過ごした草乃氏は美意識の礎を築き、豊かな感性を育んでいきます。草乃氏が生み出す繊細で色鮮やかな美しさは、石川県という伝統工芸文化豊かな土地柄で育ったことが原点となっているといっても過言ではないでしょう。

その後、草乃氏が7歳の時一家で東京へ移ります。20歳の時に結婚し、一



▲草乃しずか先生



▲寿ぎに集いて

児の母となり、主婦として、家事、育児に忙しい毎日を送るようになります。

日本刺繍との出会いは1971年(昭和46)のことです。それまでは子供が生まれたため、家で楽しめることにとフランス刺繍を始めました。そのうちに、自分の着物や帯にも刺繍をしたいと思うようになり、日本刺繍作家の丹羽正明氏に教わるようになります。草乃氏の日本刺繍人生の始まりです。

丹羽氏の技術を学びながらも自分らしく、そして女性らしい刺繍を模索し、本格的にデザインの勉強を始めました。1978年(昭和53)にNHK文化センターの講師として招聘され、日本の伝統工芸である日本刺繍を多くの方に楽しんでいただけるよう、普及活動に努める覚悟をしますが、家庭との両立はたやすいものではありませんでした。しかし、どんな時も側で支えてくれたのは「刺繍」でした。そして2000

美しい日本刺繍の世界をご堪能下さい。

0年(平成12)に初の本格的な展覧会「桜浪漫展」を開催。以降、全国で展覧会を開催していきます。

本展は「ひと針に祈りをこめて40年」と題して、創作された美しい日本刺繍の数々の作品が一堂に会します。儂くも美しく瞬く間に消え去っていく自然美の確かさを日本刺繍という日本の伝統工芸文化から紹介いたします。



▲(源氏物語) 着物「須磨」帯「御法」



▲命の花筏



▲花歌留多～和歌とともに～

草乃しずかの世界展 ひと針に祈りをこめて40年

会期：9月10日(土)～11月6日(日) 会期中無休。開館時間：10時～18時(最終入館17時30分) 入館料：一般850円、高校・大学生400円、小・中学生200円

■イベントのご案内■

○お呈茶の会

日時：10月2日(日) 11時～ お菓子がなくなり次第終了します。当展覧会のチケットをご提示ください。

○記念講演会「源氏物語の女性たち」

日時：10月9日(日) 13時～ 講師：三村三千代先生(八戸学院短期大学客員教授) 申し込み不要ですが、当展覧会のチケットをご提示ください。

○講習会「コンパクトミラー作り」

日時：10月23日(日) 13時～15時 教材費：3000円 定員：30名 日本刺繍でコンパクトミラーを作ります。お電話でお申し込みください。申込時に、A(蝶のコンパクトミラー)かB(花のコンパクトミラー)かを選んでいただきます。申し込み締め切り10/9(日)(定員に達したら締め切ります。)





特別展
夏

模型のタミヤがやってきた！！ 休 工 作 教 室



特別展「模型のタミヤがやってきた!!」の会期中、親子の夏休み工作教室を開催しました。

①人気の「ミニ四駆」、
②首振り歩行が楽しい「ロボットマンモス」、③お菓子のアクセサリ「スイーツデコレーション」を8月11日～14日、8月20日・21日に行いました。

ミニ四駆・ロボットを担当して下さった先生は、横浜町立横浜小学校の教頭先生をしております野坂佳孝氏。スイーツデコレーションは、友実家の佐伯知美氏と美術館スタッフです。どの回も人気があり、全教室合わせて198名の参加がありました。終了してからこの数字を見てびっくり！ミニ四駆は第三ブームのようですが、それにしても「タミヤ人気」はすごい！と改めて思いました。

そしてなにより子ども達の楽しそうな笑顔が忘れられない夏の思い出となりました。

2階工房での参加して頂いた親子の様子です。普段行っている「美術館アートクラブ」とはまた違う雰囲気がこの写真を見た皆様に伝わればと思います。



一番人気だった「ミニ四駆」▶

赤・青・黄の三種類の中から好きなものを選び、作ったら館内にあるコースで実際に走らせることができるとあって人気が集めたのかもしれませんね。完成したミニ四駆を持って階段を駆けて下がってくる子ども達が印象的でした。

これは定員いっぱいの時・・・2Fの工房が狭く感じてしまいました。



野坂先生のピンチヒッター！！
実は・・・息子さんです。マンモスを教えて頂きました ▶

◀ 声を張り、熱心に説明中。
1Fにも先生の声と子ども達の笑い声が。
楽しそうな雰囲気思わず仕事の手を止めて2Fへ行きたくなくなりました。

子ども自らの力で組み立てる事が大切ということからお父さんは手を出したいところを我慢。 ▶

◀ お父さんたちの方が実は真剣!!?



◀すべてお見せできないのが残念です。参加された子ども達のこの出来栄え！どれもとってもおいしそう！



佐伯先生さすがです。状況に応じた対応、とても勉強になります。子ども達も楽しそう！！ ▼



▲お皿を押さえてもらい仕上げのイチゴシロップ。腕の見せ所どころです。とても緊張します！



▲満員となったスイーツデコ。一人一人こだわりのあるため初めは、教えるペースがつかめませんでした。皆さん楽しく出来たか心配です。

美術館日誌

◇7月◇

- ▼2日(土)タミヤ展打合せ
- ▼5日(火)常設展開始
- ▼6日(水)(株)タミヤ本社出張(織川)
- ▼9日(土)タミヤ展打合せ
- ▼17日(日)ワークショップ・野菜を彫る。
(講師 佐伯 知美氏)
- ▼24日(日)常設展終了
- ▼26日(火)常設展作品片付け
- ▼27日(水)作品審査・木崎野小(館長)
- ▼30日(土)タミヤケース搬入
- ▼31日(日)タミヤクラブ作品展示

◇8月◇

- ▼1日(月)東北電力工事
- ▼2日(火)タミヤ展打合せ
- (株)タミヤ大石氏・新田氏)
- ▼3日(水)タミヤ展作品搬入・展示
- ▼4日(木)タミヤ展作品搬入・展示
- ▼5日(金)タミヤ展開催式・レセプション
RAB撮影
- ▼6日(土)タミヤ展開催初日
RAB撮影

ラジオ放送ワークショップ
受付開始

- ▼8日(月)七戸町民無料デー
- ▼11日(木)タミヤ展ワークショップ
- ▼12日(金)RAB生中継(Zip! Friday)
ワークショップ
- ▼13・14日(土・日)ワークショップ
- ▼18日(木)田舎館村社会福祉協議会様
ご来館
- ▼19日(金)RABタミヤ展取材

▼20日(土)ラジオ放送・ワークショップ

- さつき幼稚園様ご来館
- ▼21日(日)ワークショップ・バイク展示
- ▼23日(火)タミヤ展一万人セレモニー
- ▼26日(金)中部上北教育委員会様ご来館
- ▼27日(土)タミヤ・新田 泰三氏講演会
- ▼28日(日)入館者1630名
(美術館一日当り入館者 最高記録)
- ▼31日(水)第101回二科展(館長)



◇9月◇

- ▼1日(木)京 outgoing 館長/対馬
けやき寮様ご来館
- ▼2・4日(金)田宮会長来館
- ▼4日(日)タミヤ展終了
- ▼5・6日(月・火)タミヤ展片付け・搬出
- ▼7日(水)草乃展展示作品搬入
- ▼8日(木)草乃展展示
- ▼9日(金)草乃展開催式・レセプション
友の会旅行説明会
- ▼10日(土)草乃展片付け・搬出
- ▼11日(日)七彩会
- ▼19日(月)ワークショップ・菱刺し
(講師 佐伯氏)
- ▼29日(木)第16回鷹山賞審査会開催
(審査委員長 濱田進氏)
- ▼30日(金)第16回鷹山賞審査(町長)

平成28年度
鷹山宇一記念美術館ものづくりワークショップ
『美術館アートクラブ』



◆6月19日(日)は
【マーブリング体験】
です。スタッフ2名を
含む10名の参加があ
りました。



水を張ったバケツに
何種類かのマニキュア
を3滴ほど垂らし爪楊
枝でマーブル模様にな
るようにゆつくりとか
き混ぜます。但し時間と
の勝負!乾いてしま
うとマーブル模様をうま
く表現できません。うま
くいった模様を食器に
写し完成です。食器に写



すとき思い通りに
ならず何度もやり
直し挑戦していま
した。時間があつ
たという間に過ぎて
しまい、納得のい
かなかった人は、
家に持ち帰り再挑
戦すると意気込ん
でいました。



◆7月17日(日)は【野
菜を彫る】です。スタッ
フ3名を含む9名の参加
がありました。



にんじん・大根・キュ
ウリを葉っぱの形に切
ったり葉脈を表現する
ために彫ったり。完成し
た野菜は佐伯先生特製
のドレッシングに漬け
てピクルスにします。食
卓を彩ることでしょ。食
卓を彩ることでしょ。
普段のワークショップ
とは違い最後には自分
で食する事ができます。
瓶に入れて置いておく
だけでもとてもきれい
です。



特別な日の食卓を
彩るそんな飾り付
けをしてみたい
と楽しんでいらっ
しゃいました。

彫刻家鈴木正治の
作品を訪ねてⅢ

—三沢市—

十和田市 小川辰子

鈴木正治の作品を訪ねて、今回は三沢市星野リゾート青森屋（旧古牧温泉）の渋澤公園を散策しましょう。

一九八一年六月、旧古牧温泉の社長、故杉本行雄氏が第一回日本カッパ祭り

のために、鈴木さんに彫刻の制作を依頼したもので、渋澤公園カッパ沼に点在する大小の自然石に線描彫刻しています。



①カッパ沼に点在する自然石に線描彫刻



「河童」
作：岡本太郎

鈴木さんはボートに乗り、ユーモラスなカッパやアメンボウなどを四カ月かけて楽しんで彫ったということです。翌年にはカッパ沼を巡る遊歩道沿いの自然石に地藏尊や子どもたち、道祖神など約五〇点を制作しています。カッパ祭りには鈴木さんも招待され、大会最高顧問の故岡本太郎氏も同席していました。その時、制作した河童は現在、星野リゾート奥入瀬溪流ホテルの外庭に移設されています。

鈴木さんは戦後すぐに、三沢市の米軍基地でアーティストとして働いていたこともあり、三沢での仕事を喜んで引き受けたそうです。さて、本館脇の西大門から渋澤公園に入り、右に進むと広々としたカッパ沼があり、たくさん作品が見られます。ほどなく右手に東屋が見え、階段を上すると東屋の周辺一帯に大小の石彫が見られます。こちらはあまり知られていなくて、私自身も三年前に初めて見たときはとても感動したものでした。草履を揃えて脱いだ地藏尊など、実に可愛い作品群です。カッパ沼沿いに進むと慈母観音像があり、その左手に十余点の様々な表情や動きの「子どもたち」があります。手をつないだ子

どもたちは七戸町の青岩寺のものと同じテーマで鈴木さんの子どもに対する愛情が感じられます。気持ちの良い水と森の空間にのびのびと作品が息づいていますので、ぜひ一度訪ねてみてください。



- ②東屋周辺「ウゴカズ」「カッパ」「臥地藏」ほか多数
- ③カッパ沼中央右の土手「道祖神」「月と日」等
- ④カッパ沼沿いの道 慈母観音の左手 10点余の「子どもたち」



⑤産土神(うぶすなさま)のお堂前
「道祖神」「子どもたち」

ウムを開いたりしてきました。中でも「鈴木正治の軌跡」(工藤正義著、雪舎)は鈴木さんへの愛情が感じられ、とてもよくまとめられていますので、ご一読をお勧めします。

本稿はスベリ関係の紹介です。鈴木正治の作品は、力強い表現と、人間さ、自然さ、そして、多岐にわたるテーマが、多く見られます。その中でも、カッパ祭りや、道祖神、産土神など、地域の文化や信仰を題材とした作品が多く見られます。また、自然石に彫刻した作品も多く、その表現力と、自然との調和が、多く見られます。



画集を携えて

八戸市 照井壽一



撮影した写真と画集の八幡岳を自宅で見比べているうちに画伯が描いたふるさとの風景、「盛田牧場・南部曲家」、「八甲田」等の作品も気になり始め、さらには、「山のかなたに」、「高原」、「森の花」等々に描かれている山並みや並木子馬、白馬などの原風景は、八幡岳や八甲田の山々、牧歌的風景は、旧盛田牧場や奥羽牧場にあるのではないのだろうか」と勝手に想像し始めている。

勿論、画伯が描いたときより樹木も生長し、道路も整備され、土地の形状も変化し、建物の数も増えているのだから画伯が見た景色や風景がそのまま残っているはずもないのだが、どこかに残っていて欲しいという願いをこめて、二〇周年記念事業として友の会から贈っていただいた新画集

とカメラを携えて七戸町を散策し、写真撮影しながら気の向くままに道の駅で果物などを買い求め、旬の味覚を味わいながら、深まる芸術の秋はふるさとの風景探しを楽しみたい。



写真右：旧盛田牧場のケヤキ並木
平成11年撮影

参考資料

新画集「鷹山宇一の世界」、
「鷹山宇一素描集」、その他

画集「鷹山宇一の世界」
・一冊 2000円＋消費税
・申込先 鷹山宇一記念美術館

新規会員入会お誘いのお願いと 友の会会員登録更新のお願い

平素から会員の皆様には、友の会運営に多大なご理解とご協力をいただき、誠に有り難う御座います。
今後とも、鷹山宇一記念美術館の応援をよろしくお願い申し上げます。友の会では会員の皆様に喜んで頂けるよう研修旅行、講演会等を企画し、微力ながら地域文化の発展に寄与していく所存でございます。
尚、更新及び新規入会手続きは、美術館窓口と郵便振替により随時行っておりますので、新規会員登録入会の勧誘について、会員各位のお力添えをお願い致します。

○友の会の事業内容

- ① 県内外美術館研修視察旅行(年2〜3回)
- ② 海外美術館研修旅行
- ③ 美術館作品購入基金への協力
- ④ 鷹山宇一記念美術館ボランティア協力
- ⑤ 会報の発行
- ⑥ その他(美術講演会の開催等)

○一般会員

- 年会費 3千円
特典 ① 無料入館券3枚。会員証提示により入館料2割引
② ミュージアムグッズ1割引

○特別会員

- 年会費 1万円
特典 ① 会員証提示により個人・法人会員とも本人及び同伴者1名まで無料入館
② 新規加入の方に画集1冊贈呈
③ 他美術館等の視察研修への優待参加
④ 会報の配布

○賛助会員

- 年会費 2万円
特典 ① 会員証提示により個人・法人会員とも本人及び同伴者3名まで無料入館
② 新規加入の方に画集1冊贈呈
③ 特別企画展の都度、招待券を贈呈

◇詳しくは、美術館までお問い合わせ下さい。

◎お知らせ とお願ひ

★会費の納入は随時受け付けておりますが、平成28年10月1日〜29年3月31日の間に新規会員となった方は平成30年3月31日までの会費となります。

★会員の方で企画展の監視ボランティアにご協力出来る方は美術館までご連絡をお願い致します。

★皆様の会報で、友の会へのお便り、旅行記等をお寄せ下さるようお願い致します。

編集後記

★今年も豊年満作で村は総出の大祭、五穀豊穡を願い賑わった。しちのへ秋まつりも終わり、深まる食欲の秋は、各地の新社を楽しまたい。会報第84号をお届けします。編集に当たり研修旅行記等投稿を頂き感謝申し上げます。今後とも友の会の継続と発展のためにご協力を願ひ申し上げます。
(照井壽一)